



❀ 巻頭言

附属図書館長 市村 孝雄

このところ大学図書館の新しい環境づくりが話題になっています。

閲覧室とは別室の談話コーナー、徹夜組のための自習室、シースルーのセミナー室、オンキャンパスのカフェテリアなど、これまでの大学図書館にはなかった場とサービス。

静かなる読書と語り、深夜の学習と思索、オープンな討議と刺激、カフェで芽生える思わぬ発想。どれもこれも、自由で創造的な若い頭脳には大切なものなのではないでしょうか？

空前の不況、就職の氷河期、先が見えない時代。大学にまなぶ学生諸君がいま図書館に求めるのは、こういう“生活空間”と“学習環境”なのではないかと思います。それが大学図書館の新しいスペース、大学コモンズの役割なのかもしれないと思うのです。新キャンパスの構想では、是非実現してほしいものだと願っています。

さて、新春の本学附属図書館本館ロビーでは、かつて本学から慶南大学校に寄贈した寺内文庫所蔵資料を慶南大学校が刊行した図録全13冊を展示しています。本学では初めて展示するものです。是非手にとってご覧ください。

図録のタイトルと概要は次のとおりです。

慶南大学博物館「未来館」収蔵

「寺内文庫」図録

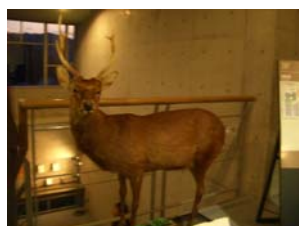


1967年に学術交流のため、本学から慶南大学に寄贈時代の福岡寺内文庫蔵書資料が寄贈された。  
本年、尾山の遷りを見下ろす慶南大学のキャンパスに新築された博物館が完成し、その中に寺内文庫資料が収められた。10月初め、学長が関係する学術交流経緯図が慶南大学の博物館に送られた。  
経緯図は、博物館より、これまでに発行された資料関係資料の図録や博物館蔵書資料の図録をバックの両子で送られて来た。  
附属図書館では、この機会に貴重少歴史資料の複製された図録を館内に展示し、学術的資料の紹介に努めて来た。展示は1月1日より、是非手にとってご覧ください。



- 「寺内文庫特別展図録」 1996年・・・姜豹庵先生遺墨ほか27点の図帖、遺墨、簡牘など
- 「宮中関係資料」 1998年・・・「丁丑入学図帖」ほか
- 「名賢簡牘 I-上」 1999年・・・歴代名筆の墨蹟、わが国の手鑑に相当するもの
- 「名賢簡牘 I-下」 2000年・・・同上
- 「戊辰朝天別章帖」 2001年・・・送別詩帖
- 「亥赴燕別章帖」 2002年・・・同上
- 「近儒帖」 2003年・・・学者の書簡集
- 「簡牘帖」 2004年・・・前出参照
- 「古簡帖 I」 2005年・・・前出参照
- 「古簡帖 II」 2006年・・・前出参照
- 「詩・書・畫に宿る朝鮮の心」 2006年・・・御製御筆、宮中記録畫、名家の書画など
- 「墨縁」 2008年・・・図帖、書画、墨蹟など
- 「後世に伝える文物に隠された自然の意味」 2008年・・・慶南大学博物館に展示された考古文物の紹介など

## ■ 図書館は大学の顔—先進的な運営を行っている大学図書館を視察して—



京都精華大学キャンパスで、写生中の学生の眼前で鹿同士が戦い、力尽きた鹿が剥製になった。現在「情報館の守り神」か？

附属図書館	主事	藤井	佳代
	司書	窪田	啓子
	司書	徳田	聖子
	司書	清水	千裕

平成20年度事務職員自主研修として、10月に京都の私立3大学、11月に大阪の公立2大学の図書館を視察しました。そこでは当館が目指すべき将来像のヒント、また現在のサービスに活かすことのできる様々な工夫を目にすることができ、大変有意義な視察となりました。

### 情報館は学生の創作活動の場

10月29日午後3時、京都精華大学を訪問しました。こちらの大学は京都市左京区、京都市街地からは少し離れた郊外に位置しています。地下鉄国際会館前で下車すると、そこから大学まで無料のスクールバスが出ています。もちろん私たちも学生と一緒に乗り込み、大学へ到着。京都精華大学は4学部10学科、学生数約4千人、また蔵書数は約22万冊です。芸術系の大学ということもあり、キャンパス内には所々にオブジェがあり、ちょうど大学祭前ということで各サークルの看板が並び、とても賑やかな雰囲気でした。



京都精華大学「情報館」

京都精華大学では、図書の所蔵だけでなく、情報収集から発信まで総合的に扱う施設として、図書館の機能

と情報・メディアセンターの機能を備えた「情報館」が1997年に開館しました。ここは情報を入力するのみでなく、互いに交流し、情報を再生産、発信していく双方のコミュニケーションの場としての役割を担っています。

2階入口から情報館に入館してまず目にしたのがコミュニケーションスペースです。これが図書館？！と一瞬目を疑う様な賑やかさ。たくさんの学生が入りし、お喋りしています。またBGMも放送され、大型モニターの画面には学生が制作した映像が映し出されています。しかし3階の閲覧室に入ると、コミュニケーションスペースとは全く異なる静寂の空間が広がっていました。

コミュニケーションスペースでは雑談・飲食可だが、その他のフロアでは私語禁止としているとのこと。そのギャップにまず驚いた訪問となりました。

情報館で特徴的なのは資料のほとんどが開架の状態にあるということです。中には貴重な雑誌もありますが、それも自由に閲覧



AVコーナー

できることには驚きました。学生に自由にいつでも様々な資料に直に触れて欲しいという考えがあるようでした。また1階はメディアセンターとなっており、ビデオやDVDの視聴ができるほか、映像やデザインの編集ができる設備も整っています。そこでは講義が行われる部屋もあるということで、私たちが訪問した時も多くの学生が入りしていました。また機材貸出や相談などを学生が担当しているため、カウンター内で学生スタッフが手際よく働いている姿も印象的でした。

京都精華大学情報館は芸術系の大学ということもあり、大型美術書や図録、またマンガ学部があることからマンガ雑誌なども豊富に備えており、情報館全体が学生の創作活動の場という感じでした。情報館は学生たちの創造力発信を支える一翼を担っているということ強く実感しました。



展示コーナー

## 大阪商人の魂息づく元祖ラーニング・コモンズ

1月27日午後2時、大阪市立大学を訪問しました。こちらの大学は大阪市住吉区、もうすぐそこは堺市といったところに位置しています。JR杉本町駅で下車すると、目の前にはキャンパスが広がっていました。敷地内でも一際目立つ10階建ての高層ビル、それが図書館の機能も備えた「学術情報総合センター」です。大阪市立大学は8学部28学科、学生数約1万人、また蔵書数は約258万冊という国内最大規模の図書館を備えた総合大学です。

今多くの大学図書館が図書館と大学全体の情報処理・ネットワークの中核機能を備えた、知の拠点として、「ラーニング・コモンズ」型の学術情報センターへと生まれかわっていますが、この大阪市立大学学術情報総合センターは1996年に建設され、元祖ラーニング・コモンズと言えます。従来の紙媒体としての図書や雑誌、また貴重書の利用・保存という形態と、高度情報処理ネットワークを活用した電子ジャーナル・データベース、紀要論文や貴重書のデータベースといった電子図書館という形態が巨大なセンターの中で融合している姿を目の当たりにしました。

まず学術情報総合センターに入館して目にしたのが談話コーナー、自由学習コーナーです。このコーナーはゲート前の1階ホールにあるため、センターが休館の場合も利用することができます。当日は休館日だったということもあり、多くの学生が学習していました。また1階にはカフェテリアもあります。私たちは約束の時間より早めに着き、そこで昼食をとりましたが、学生だけでなく、市民の方も利用されていました。

ゲートの先では圧倒的な蔵書数を背景に、巨大かつ未来型の施設設備が広がっていました。フロアごとにテーマが位置づけられており、それぞれの役割に応じてカウンターが設置されるなど、巨大な設備でありながら、理路整然ときめ細かく利用者へのサービスが図られているのには驚くばかりでした。またゲートは1階入口だけなので、一度そこを通れば縦横無尽に知の宝庫を探索することができます。

ここで注目したのが地下1階にある雑誌センターです。大阪市立大学は学術雑誌の収集拠点となっており、約5,000タイトルの雑誌が備えられています。ここでは学内の主な学術雑誌を集中管理していますが、特徴的なのは雑誌については貸出ができず、閲覧か複写のみとなっていることです。これは学生だけでなく、教員についても適用されています。学術雑誌は図書の様に読むという

よりも、必要な最新の論文や情報を得るという側面があるため、より効率的に共同利用できる状態にしておくことが望ましいという考えのもと、こうした利用形態となっています。

大阪市立大学学術情報総合センターは市立大学でありながら、国立大学並みの規模を持ち、施設も12年前に完成したとは思えない設備を備えており、驚嘆するばかりでした。学術情報総合センターは、公費すなわち地域の税金で培われた共有財産であるという強い意識、また地元の財界人や市民たちの手によって築き上げた、日本で最初の市立大学という経緯から受け継がれる精神によって成り立っているということを強く感じました。

### 閲覧室



大阪市立大学学術情報総合センター

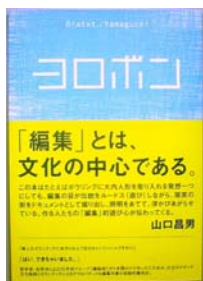


貴重書庫

このたびの研修では、日常業務での様々な改善策を知ることができ、また配架一つをとっても私たちが今まで行っていたこととは全く異なる視点で行われていたり、工夫がされていたりと衝撃を受けることが多々ありました。また視察に訪れた大学はいずれもその大学を体現するような顔を持っていたように感じます。学部構成や大学として重点を置いていること、そして理念を図書館内で感じることができました。振り返って当館はどうでしょうか？ハード面もさることながら、資料の構成や充実度もまだまだ十分とは言えません。来るべき新設の時だけでなく、現在のこの限られた資源の中で、少しずつでも工夫を重ねて大学の顔となるべく努力していきたいと考えています。また、他大学の図書館視察にあたっては、当初は先方に迷惑がかかるのではないかと、あまりにレベルの異なる話をされたらわかるだろうかと心配に思っていました。視察した大学はいずれも業務多忙な中でも快く引き受けてくださり、長時間に渡って、丁寧に説明をしていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

## 「ヨロボン」創刊号完成です！

附属図書館 司書 曾田 元子



昨年、市内文化施設の「編集ワークショップ一冊の本をみんなで作る。」こんな呼びかけに「本」というキーワードに惹かれて県内外から沢山のコラボレーターが集まりました。

この活動は、山口情報芸術センターで行われている長期参加型のアートプロジェクト「meets the artist」の2007年版です。「meets the artist」とは、この施設の教育普及事業の一つで、1回で終わってしまうワークショップとは異なり、ひとり、あるいは一組のアーティストと年間じっくり関わりながら市民を中心としたコラボレーターが協働で創造的なアート活動を実践していく長期ワークショップです。「山口情報芸術センター」は通称 YCAM と呼ばれ、山口市立図書館やレストランとメディアアートを創作発表するスタジオを併設した新しい複合型文化施設です。私はこの施設が開館したとき施設ボランティアに関わり、これを機に様々な文化活動に参加しています。

昨年開催された「編集的脳みその獲得」で、哲学者であり京都大学大学院文学研究科教授である吉岡洋氏が、脳みその「脳」というメカニカルで合理的な部分と、「みそ」というファジーで情緒的な部分についてのレクチャーで、編集的思考について語られました。

今回の市民コラボレーターは「編脳研（編集的脳みそ研究会）」というグループ名で、吉岡洋氏を編集長に迎え、山口という地と文化を、遊び心を持った市民の視点で紹介する本を作ることになりました。↓「山口の春」



最初に本のページを埋める素材として山口という「地」を、伝統文化・人・食に分類し、伝統文化、伝統工芸として全国的に有名な大内塗りに、人は山口市が生誕県大生佐々木恭子さん作の地である中原中也に、食は地元で取れる豊かな食材と山口独自のオリジナル食品「瓦そば」などに視点を当て、沢山の方に参加してもらえる様、公開対談やお弁当コンテストなどのイベントを開催して情報の収集を行いました。

さあ、ここから編脳的脳みその力量発揮です。実はこれからが大変な作業になるのです。対談を文字起こしした原稿校正作業班では、提出された原稿の誤字脱字や、表記統一の校正作業を行いません。全ての原稿を何度も読み直し、本の台割に添った文字数を調整する作業をひたすら繰り返します。次にページのデザインとなるサムネイルの構成。取りためた百枚以上の画像からどれを載せるか選択し、画像をトリミングします。仕上げに製本する紙質を決め、表紙デザインと帯の執筆を依頼しました。最後は色校正をする為に印刷工場で見学させてもらいながら、色の濃淡、鮮明度などを直接チェックし、校正作業をしました。



このようなプロセスの1年を経た今年11月、やっと市民が創る一冊の本「ヨロボン」（縦に読むと山口本）が完成しました。外国人向けに英文のページも加わり、グローバルな視点で山口の地域文化や歴史が再編集されています。

創刊後に吉岡氏は「編集とは共存のテクノロジーです。いろんなイメージやテキストをただ集めるのではなく、それらを組み合わせデザインすることで、元の素材から新しい情報が生まれてくるようにすることです。」と語っておられ、今後この本が読み手によってどのような本になるか楽しみです。

図書館にある図書がどのように編集されたのか想像してみると、読み手としての思いも深くなるのではないのでしょうか。読書から自分なりの編集の技を磨いてみるのも楽しいものです。

\*「コラボレーター」・・・アートプロジェクトの一般参加者。

### ◆ 編集後記

館報第11号、丑年新年号の完成です。

(町田)

### ■ 編集・発行/山口県立大学附属図書館

〒753-8502 山口市桜島3-2-1

TEL. (083) 928-0522 FAX. (083) 928-0279

E-mail: lib@sakura3.yamaguchi-pu.ac.jp

http://www.yamaguchi-pu.ac.jp/index.php?M\_ID=9